



国際化の最前線から



病気になったときくらい、母語で安心して医療を受けられる日本社会でありたい

医療通訳研究会 (MEDIINT/ メディント) 代表
村松 紀子

医療通訳研究会 (MEDINT) は 2002 年 10 月に在住外国人の医療を考える医療通訳者団体として設立された。それから 15 年たった今でも、法人格も事務所も持たず、関西を中心に医療通訳に関する勉強会と情報発信、通訳ユーザートレーニングを行っている。

早い段階から、仕事を通じて、相談者の「医療機関での通訳」ニーズがあると感じていた。大きなきっかけは阪神淡路大震災後の、精神疾患や感染症、ストレスによる不定愁訴などの増加だった。もともと関西には早くから外国人支援団体や医療通訳に理解のある病院、司法通訳人団体などがあり、また「びわ湖国際医療フォーラム」など、医療者、支援者、研究者の垣根を越えた議論の土壌がある。こうした関西の地の利を活かして、身の丈にあわせた活動を継続させてきた。

最近の学習会は年間テーマを決めて実施しており、昨年度は、NPO 法人 CHARM と協働で「母子保健分野医療通訳研修」、今年度は、兵庫県のちと生きがいプロジェクトの助成を受けて「告知場面をサポートできる医療通訳者研修」を開催した。また、医療通訳者のための言語分科会 (英・中・西・ポル・タイの 5 言語に今年度から試験的にベトナム語を追加) では、当該言語の国で医療資格を持つ講師 (英語のみ英語教師と日本人医師

のペア) が担当、自己学習では難しいレベルの講座を年 4 回開催している。全言語同日開催とし、他言語の通訳者との交流や 2 言語の同日習得も可能である。自分の地域で学習会を企画している人の見学も大歓迎だ。

医療通訳が専門職になるには、まだまだ遠い道のりだと思う。しかし、在住外国人、訪日外国人の増加、メディカルツーリズムの展開など医療通訳のニーズは確実に増加している。音声翻訳や遠隔通訳などの技術が進む中、人間にしかできない暖かみのある医療通訳者はまだまだ必要だ。また、医療通訳者を受け入れる医療者の研修も忘れてはならない。ボランティアから始まり、十分な環境整備ができていない分野ではあるが、医療通訳者団体として、これからも発信を続けていきたい。



「医療通訳者のセルフケアについて」(2018 年 12 月開催)



中国人医師による医療中国語分科会 (2018 年 12 月開催)

プロフィール

村松 紀子 (むらまつ のりこ)
神戸大学大学院国際協力研究科修士課程修了。青年海外協力隊帰国後、1993 年より (公財) 兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンターでスペイン語相談員として勤務。社会福祉士。自治体国際化協会地域国際化アドバイザー。愛知県立大学外国語学部非常勤講師。
ブログ MEDINT 便り
<https://blog.goo.ne.jp/medint>